

Title	著訳者紹介
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, -No.54, 2013.2 : 3-8
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4724
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

〔著 訳 者 紹 介〕

(掲載順)

阿久戸 光晴 あくど・みつはる

1951年生まれ。一橋大学社会学部・法学部卒。住友化学工業株式会社勤務を経て、東京神学大学博士課程前期修了後、米国エモリー大学神学部大学院ほか。その傍ら聖学院大学及び聖学院アトランタ国際学校開設業務を担当。その後聖学院大学宗教主任兼助教授を経て、現在、学校法人聖学院理事長・兼院長、聖学院大学学長兼教授。その他日本聖書協会新翻訳事業検討委員、荒川区不正防止委員会委員長など。

〔著書〕『近代デモクラシー思想の根源』、『説教集 新しき生』、『ヴェーバー・トレルチ・イエリネック』(共著)、『神を仰ぎ人に仕う』(共著)、『キリスト教学校の形成とチャレンジ』(共著)ほか、著書・論文多数。

田中 豊治 たなか・とよじ

1926年生まれ。東京大学経済学部卒。同大学院社会科学研究所(経済史学専攻課程)博士課程修了。経済学博士(東京大学)。法政大学教授、千葉大学教授、大東文化大学教授を歴任。元聖学院大学総合研究所客員教授。千葉大学名誉教授、大東文化大学名誉教授。

〔著書〕『イギリス絶対王政期の産業構造』(岩波書店)、『ウェーバー都市論の射程』(岩波書店)、『近代世界の変容 ヴェーバー・ドイツ・日本』(共編著、リプロボート)、など。

〔訳書〕S. N. アイゼンシュタット『文明形成の比較社会学——ヴェーバー歴史理論の批判的展開』(共訳、未来社)。

藤原 淳賀 ふじわら・あつよし

1965年岡山市生まれ。聖学院大学総合研究所教授。東京基督教大学専任講師(2000-4)、聖学院大学総合研究所助教授、准教授、を経て現職。Ph.D. (University of Durham, England); M.Div. (Golden Gate Baptist Theological Seminary); 教育学修士(慶応義塾大学大学院)。研究領域はキリスト教神学・倫理学。

〔著書・論文〕*Theology of Culture in a Japanese Context: A Believers' Church Perspective*, Princeton Theological Monograph Series (2012); "The Challenge of Yoder and Hauerwas' Theology in the Japanese Context"; 『ジョン・H・ヨーダーの神学：平和を作り出す子羊の戦い』(共著)、『キリスト者と戦争：歴史的概観と今後の課題』、「ダビデ：神への恐れと信頼」他。

ホアン・マルティネス Juan Martínez

M.Div. (メノナイト・ブレザレン聖書神学校), Th.M., Ph.D. (フラー神学校)。

フラー神学校准教授。異文化国際プログラム学務担当副部長とヒスパニックセンターの部長を務める。メノナイト・ブレザレン教団の受按牧師でもあり、教会開拓や、グアテマラにある聖書学校や神学校の校長を務めた。主たる研究領域は、北米におけるラテン系プロテスタント研究。

〔著書〕 *Los Protestantos An Introduction to Latino Protestantism in the United States; Churches, Cultures & Leadership A Practical Theology of Congregations and Ethnicities* など。

豊川 慎 とよかわ・しん

1977年生まれ。関西学院大学神学部、キリスト教学術研究所大学院 (Institute for Christian Studies, Toronto, Canada) 修士課程、アムステルダム自由大学哲学部修士課程、聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化研究科博士課程修了。博士 (学術)。現在、聖学院大学総合研究所特任研究員。

〔訳書〕 P. ヘスラム 『近代主義とキリスト教——アブラハム・カイパーの思想』 (共訳, 教文館, 2002年), A. マクグラス 『キリスト教の霊性』 (共訳, 教文館, 2006年) ほか。

〔論文〕 「河井道——平和を希求する人格の教育」 南原繁研究会編 『真理の力——南原繁と戦後教育改革』 (to be 出版, 2009年), 「A.D. リンゼイのデモクラシー思想とピューリタニズム」 (日本ピューリタニズム学会 『ピューリタニズム研究』 第4号, 2010年), 「近代民主国家と市民社会のプロテスタント政治思想序説——リンゼイ、アルトジウス、カイパー」 (『聖学院大学総合研究所紀要』 第53号, 2011年) ほか。

グレン・スタッセン Glen Stassen

1936年生まれ。B.A. (原子物理学, ヴァージニア大学), B.D. (ユニオン神学校 [N.Y.]), Ph.D. (デューク大学)。ハーバード大学研究員, デューク大学, ケンタッキー南部大学, ブレア大学, 南部バプテスト神学校を経てフラー神学校教授 (キリスト教倫理学)。主たる研究領域は、福音の受肉としての和解と社会正義。「平和と正義賞」他, 数々の賞を受賞。30以上の教派の神学者たちと正義の平和作りの新しいパラダイム研究と実践を行っている。父は、ミネソタ州知事, ペンシルベニア大学学長等を歴任し, 国際連合の設立に深く関与したヘラルド・スタッセン。

〔著書〕 *Kingdom Ethics* (2004年最良書籍賞〔神学部門〕を受賞。その一部は『イエスの平和 (シャローム) を生きる: 激動の時代に読む山上の説教』として邦訳); *Authentic Transformation: A New Vision of Christ and Culture; Just Peacemaking: Transforming Initiatives for Justice and*

Peace; A Thicker Jesus: Incarnational Discipleship in A Secular Age (Forthcoming) など。

河野 克也 かわの・かつや

1965年、愛媛県に生まれる。1988年、国際基督教大学卒業、東京聖書学院を経て1992年、神戸ルーテル神学校より神学修士号 (M.Div.) を取得。米国・合同メソジスト聖書神学校 (M.A. in Theological Studies), デューク大学神学部 (Th. M.), サザン・メソジスト大学大学院宗教学博士課程修了 (ABD)。現在、青山学院大学非常勤講師、日本ホーリネス教団・中山キリスト教会協力牧師。

〔著書〕『聖書神学事典』(共著、いのちのことば社)。

〔訳書〕リチャード・ヘイズ『新約聖書のモラル・ヴィジョン』(共訳、キリスト新聞社), W・M・スワートリー『平和の契約』(共訳、東京ミッション研究所), A・E・マクグラス『キリスト教神学資料集 下』(共訳、キリスト新聞社)。

山口 陽一 やまぐち・よういち

1958年群馬県生まれ。金沢大学、東京基督神学校、立教大学大学院(修士)。東京基督神学校・立教大学他で非常勤講師(日本キリスト教団), 東京基督神学校校長を経て、現在、東京基督教大学教授・研究科委員長(2012年4月から)。

日本同盟基督教団徳丸町キリスト教会・日本基督教団吾妻教会牧師を歴任。現在、日本同盟基督教団市川福音キリスト教会牧師(兼任), 同教団理事, 日本福音同盟(JEA)神学委員長。

〔著書〕『キリストにあってひとつ——日本プロテスタント宣教150年の記録』(共著, 日本聖書協会), 『日本開国とプロテスタント宣教150年』(共著, いのちのことば社) 他。

大木 英夫 おおき・ひでお

1928年生まれ。1956年東京神学大学大学院卒。1960年ユニオン神学大学(ニューヨーク)ドクターコース卒。神学博士。組織神学・社会倫理学専攻。元東京神学大学学長。東京神学大学名誉教授。学校法人聖学院名誉理事長。現在、聖学院大学大学院長・教授。聖学院大学総合研究所長。

〔著書〕『ブルンナー人と思想』(日本基督教団出版部, 1962年), 『ピューリタニズムの倫理思想』(新教出版社), 『ピューリタン——近代化の精神構造』(中央公論社), 『終末論的考察』(中央公論社), 『終末論』(紀伊國屋書店), 『現代人のユダヤ人化——現代文明論集』(白水社), 『キリスト入門』(ヨルダン社), 『歴史神学と社会倫理』(ヨルダン社), 『偶然性と宗教』(ヨルダン社), 『バルト』(講談社), 『日本の神学』(共著, ヨルダン社), 『主の祈り』(聖学院大学出版会), 『新しい共同体の倫理学 基礎編』(上・下, 教文館), 『日本は変わるか戦後日本の

終末論的考察』(共著, 教文館), 『ローマ人への手紙 現代へのメッセージ』(教文館), 『字魂
和才の説——21世紀の教育理念』(聖学院大学出版会), 『時の徴——第三ミレニアムとグロー
バリゼーション』(教文館), 『組織神学序——プロレゴメナとしての聖書論』(教文館), 『人
格と人権』(上)(教文館)その他。

鈴木 幸 すずき・みゆき

1979年生まれ。清泉女子大学文学部卒。清泉女子大学大学院修士課程, 英国ウォーリック大
学修士課程, 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究所博士後期課程修了。博士
(学術)。現在, 聖学院大学総合研究所特任研究員。

〔論文〕「Problems of Poetry Translation from English into Japanese: with Special Reference to
the Imagery of Words of Christina Rossetti's *Goblin Market*」『清泉女子大学大学院人文科学研究
科論集』2004年。

松尾 秀哉 まつお・ひでや

1965年愛知県生まれ。一橋大学社会学部卒。東邦ガス株式会社, 株式会社東海メディカルプ
ロダクツ勤務を経て, 2007年3月東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。
現在, 聖学院大学政治経済学部准教授。専攻はベルギー政治史, 比較政治学, キリスト教民主
主義論。

〔著書〕『ベルギー分裂危機——その政治的起源』(明石書店, 2010年), 『模索する政治——代
表制民主主義と福祉国家のゆくえ』(ナカニシヤ出版, 2011年)(共著), 『世界の見方, 個の
選択』(新泉社, 2012年)(共編著)。

〔論文〕「キリスト教民主主義政党の「調停の政治」メカニズム——ベルギーにおける初期福祉
国家改革期のカトリック党の党内政治過程」『国際関係論研究』(2000年10月), 「コンセンサ
ス・デモクラシーにおける『ワンマン』型リーダーの台頭」日本比較政治学会編『年報比較政
治学 第10号 リーダーシップの比較政治学』, 早稲田大学出版(2008年), 「ベルギー分裂危機と
ブリュッセル周辺域の民族問題——『国家政治の縮図』から『都市政治の復権』へ」日本比較
政治学会編『都市と政治的イノベーション』(日本比較政治学会年報 第12号), ミネルヴァ書
房(2010年)など。

金 明容 きむ・みよんよん

1952年生まれ。ソウル大学校英文科卒。[ソウル]長老会神学大学大学院修了(Th. M)。ドイ
ツ・チュービンゲン(Tuebingen)大学神学部で神学博士(Dr. theol.)学位取得。プリンストン
(Princeton)神学大学院客員教授歴任。韓国組織神学会会長歴任。韓国カール・バルト学会会

長歴任。現在、生命神学研究所所長，長老会神学大学校総長。

〔著書〕『開かれた神学，正しい教会論』（1997年）[열린신학 바른 교회론]，『現代の挑戦と今日の組織神学』（1997年）[현대의 도전과 오늘의 조직신학]，『この時代の正しいキリスト教思想』（2001年）[이 시대의 바른 기독교 사상]，『カール・バルトの神学』（2007年）[칼바르트의 신학] など。

高 萬 松 こう・まんそん

1953年生まれ。東京神学大学大学院博士前期課程修了。聖学院大学大学院博士後期課程修了，博士（学術）。現在，聖学院大学総合研究所助教。

〔著書〕『포사이스의 신의론（フォーサイスの神義論）』（基督教連合新聞社，ソウル，2007年），『P. T. 포사이스における戦争倫리』（共著，古屋安雄編『歴史と神学』聖学院大学出版会，2006年）。

〔訳書〕『바른기도와 그 열매（正しい祈りとその実り）』（大韓基督教出版社，ソウル，1999年，P. T. Forsyth, The Soul of Prayerの韓国語翻訳），『청교도』（基督教連合新聞社，ソウル，2010年，大木英夫『ピューリタン』の韓国語翻訳）。

〔論文〕「P. T. 포사이스とピュー리타니즘」（日本ピューリタニズム学会『ピューリタニズム研究』2，2008年），「初期韓国教会とピュー리타니즘」（日本ピューリタニズム学会『ピューリタニズム研究』4，2010年），「1970年代韓国教会の社会参与に関する神学の考察」（『聖学院大学総合研究所紀要』52，2012年），「日韓会谈反対運動と日韓教会交流」（『聖学院大学総合研究所紀要』53，2012年）ほか。

田 中 佳 たなか・けい

一橋大学社会学部，パリ第一大学大学院考古学・美術史研究科を経て，2009年3月，一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士（社会学）。現在，一橋大学大学院社会学研究科特別研究員，聖学院大学政治経済学部・横浜市立大学国際総合科学部・駒澤大学文学部・青山学院女子短期大学芸術学科非常勤講師。専攻は近世フランス文化史・美術史。

〔論文〕「美術における『公衆』の誕生——1740年代後半の論争を中心に」『一橋論叢』第131巻第2号，日本評論社，2004年2月，55-73頁；「王立美術館のメッセージ——ダンジヴィレの奨励制作とルーヴル宮美術館創設計画」『日本18世紀学会年報』第20号，日本18世紀学会，2005年6月，55-66頁；「ダンジヴィレの奨励制作——自国史への関心と『フランス派』の形成」，『鹿島美術研究』，鹿島美術財団，年報第26号別冊，2009年11月，183-194頁；「ルーヴル美術館構想の萌芽——リュクサンブール宮ギャラリーの開設とその機能（1747-1750年）」，『一橋社会科学』，2009年11月，第1巻第2号，1-13頁；「アンシャン・レジム末期の偉人の称揚——ダンジヴィレの『奨励制作』偉人像と美術館の役割」『日仏歴史学会会報』第26号，2011年6月，3-18頁；「フランス革命前夜における美術行政と公衆——ダンジヴィレの『奨励

制作』(1777—1789)を事例として』『西洋史学』,第242号,2011年,38—56頁ほか。

〔翻訳〕『コロー展』(展覧会カタログ),共訳,読売新聞社,2008年6月;『ルーヴル美術館展—美の宮殿の子どもたち』(展覧会カタログ),共訳,朝日新聞社,2009年3月;『ターナーから印象派へ』(展覧会カタログ),共訳,アルティス,2009年7月;『マリエ=アントワネットの画家ヴィジェ=ルブラン展』(展覧会カタログ),共訳,日本経済新聞社,2011年3月,ジャン=マリエ・ペルーズ・ド・モンクロ『芸術の都パリ大図鑑—美術・建築・デザインの歴史』,共訳,西村書店,2012年ほか。

木村 美里 きむら・みさと

1979年生まれ。Anglia Ruskin University (旧 Anglia Polytechnic University) MA in European Language and Intercultural Studies 修了。聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程修了。博士(学術)。現在,聖学院大学基礎総合教育部(ラーニングセンター)特任助手。

〔論文〕「オクタヴィア・ヒルにおける「永続する精神」——理想実現としてのナショナル・トラスト」(『聖学院大学総合研究所紀要』第44号,2009年),「人々の関係を結びつける失われた鎖——十九世紀英国の女性社会改良家の活動を手がかりに」(『聖学院大学総合研究所紀要』第49号,2011年),「心の琴線に触れる美しい環境への一考察——オクタヴィア・ヒルとカーン協会」(『比較文化研究』No.95,2011年)。